

慶安川再生（韓国）

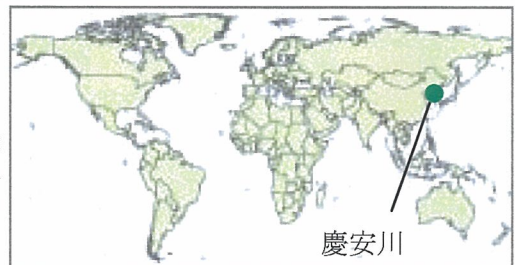
河川の生態系を健全なレクリエーションや文化的な活動と調和させることが最も望ましいという考えから、慶安川の復元プロジェクト事業は進められた。この事業は、将来世代のため、よりよい生活、よりよい地球環境のために、慶安川の生態系の自然機能を復元し維持すること、また、クリーンな自然の河川文化を実現することを主な目的としている。これらを実現するための基本原則として生態系アプローチが用いられている。自然にできるだけ近い形にするという点で、このプロジェクトは韓国初の試みとして、河道、流域湿地復元の布石となる事例と言える。

◆ 再生のポイント

- 河道の復元
- 湿地の復元
- 生態系の回復

◆ 慶安川概要

慶安川は、漢江（ハン川）の支流の一つで、総面積 575km²、本流部分が約 50 km に渡り、朝鮮半島で最も規模の大きな流域となっている。慶安川は韓国全域の他の河川のパターンとほぼ同じで、上・中流域からの排水の流入により下流域の水質が劣化している。従って慶安川は、水資源保護のための清浄さが要求される特別ゾーンに流入する汚染源の一つとされている。



さらに慶安川流域は、1990年代以来、韓国で最も開発が進んでいる地域であり、地方政府所在地であるヨンイン市は、多くのマンション、アパート、レクリエーションリゾート、ゴルフコースなどが建設され、大小さまざまな開発が急速にすすんでいる。

1999年から2000年当時の氾濫や環境に対する治水の問題点が MOCT（Ministry Of Construction & Transportation：韓国建設交通部）によって確認されたのを契機に、韓国省庁下のワーキンググループが設置され、慶安川復元プロジェクトが推進された。

◆ 再生のために実施した事業

【河道の復元】

慶安川の復元事業は全長 22.5 km²に及び、2.1 km²のエリアが下流域の湿地部分となっている。直線的な低水路の河川を蛇行する川に変えようと、5～7倍の幅にし、様々な流れの河川にするため、堤防や護岸などを設置した他、早瀬や沼の造成が行われた。

【湿地の復元】

できるところでは氾濫を許し、河道の緩和を行うことで、河川の自然の物理的、連続的なプロセスの回復を図る。川と氾濫原をつなぐことにより、洪水を受け入れる容量をあげることができる。

【生態系の回復】

水辺の生態系に関しては、水質、形態、環境管理の問題があり、特に生息地が失われ、動的作用が失われたことが深刻な問題となっていた。2000年に水辺での調査が実施され、水質汚染の問題、動植物の問題、河道地形等の項目について検討された。過去慶安川には12種の在来魚種が生息していたが、現在は6種に減少していることから、それらの種のためのカバーとなるような河川の生息地を設けた。

